

# 地域支える高度な治療

## 中部国際医療センター竣工



来年1月に開院する木沢記念病院の  
新病院、中部国際医療センター。美濃加  
茂市健康のまち一丁目

### 美濃加茂市 502床、県内民間最大級



完成を祝いテープカットをする  
関係者ら。同

社会医療法人厚生会（美濃加茂市）が運営する木沢記念病院の新病院「中部国際医療センター」の竣工式が18日、現地で開かれ、来年1月の開院に向け関係者約170人が完成を祝った。病床数は50床増の502床で、県内の民間病院では最大級となる。

木沢記念病院は1913年開院。木曽川近くの現病院を約2.5キロ北の高台に新築移転する。市は総合計画に掲げる「健康」の実現に向け、住民がおらず、厚生会と市が所有する蜂屋町上蜂屋周辺の町名を条例で「健康のまち一丁目」に変更。新病院の住所は「美濃加茂市健康のまち一丁目1番地」となる。

新病院の建物は、地上10階建て延べ約6万平方メートル。4室増で11の手術室、10の集中治療室、屋上ヘリポートなどを備え、地域の救急医療を支える。強度変調放射線治療専用装置「ハルシオン」など最先端のがん治療装置を導入するほか、2023年には陽子線がん治療センター棟の開設を予定。市内に長期滞在して治療などを行う「メディカルツーリズム」として、海外からの患者受け入れも視野に入れる。また、市保健センターや、予防医学に基づいたメディカルフィットネス施設「健康増進施設クラブM」、カフェやコンビニなどが入る「みのかも健康プラザ」も併設する。

現在の木沢記念病院には来年1月、慢性期の脳機能障害を改善し患者の社会復帰を支援する「中部脳リハビリテーション病院」が開院する。新病院と現病院、美濃太田駅や可児市の名鉄西可児駅をつなぐ無料送迎バスも、来年1月4日から運行される。

式典には古田肇知事、伊藤誠一市長らが出席。厚生会の山田實紘理事長は「地域の方にいかに高度な治療を利用していただくかが肝心。この地域の患者が安心して住めるよう、正月からスタートしたい」とあいさつした。（沢野都）